

令和2年度 国立中央青少年交流の家

自然体験活動上級指導者 (NEAL インストラクター) 養成講習

令和2年12月11日(金)～12月13日(日) 2泊3日

○目的

自然体験活動の上級指導者を養成し、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動の推進に寄与する。

○参加者

NEAL リーダーを取得し、演習 I を修了している者

大学生、社会人 計 18 名

内訳

大学生 2 名

社会人 16 名



○事業の内容

(1) 研修①「自然体験活動の特質」

講師：公益財団法人 KEEP 協会 鳥屋尾 健 氏

自然体験活動は自然環境がベースにあり、人と自然の関わりの歴史の中で、その気候風土ならではの文化・歴史・産業が生まれてくるため、その地域の特質を理解することが重要であることを学んだ。



(2) 研修②「自然体験活動の指導」

講師：公益財団法人 KEEP 協会 鳥屋尾 健 氏

4名程度のグループに分かれ、プログラムを企画した。実際に活動を行うフィールドの確認などを通し、「ねらい」をもとにプログラムを企画し指導することの重要性を学んだ。



(3) 研修③「対象者理解」

講師：公益財団法人 KEEP 協会 鳥屋尾 健 氏

インタビュー形式のワークを通し、対象者の心に寄り添い、傾聴することが大切であることを学んだ。また、対象者の特性に限らず「だれにでも」という視点が大切であることも学んだ。



(4) 研修④「自然体験活動の技術」

講師：公益財団法人 KEEP 協会 鳥屋尾 健 氏

前日にグループで企画したプログラムを実際に指導した。実際に指導を行う中で、企画時には想定していなかった事象に対応することで、指導することの難しさを体験することができた。



(5) 研修⑤「学校教育における体験活動」

講師：國學院大學 准教授 青木 康太郎 氏

講義形式で、学校教育における体験活動の意義や、集団宿泊活動の現状、学習指導要領における体験活動の位置づけについて理解を深めた。



(6) 研修⑥「自然体験活動の安全管理」

講師：岐阜女子大学 教授 井上 透 氏

体験活動における安全管理や、実際に事故が起きてしまった時の対応などを学ぶことができた。また、演習形式で登山時の歩き方や、ほどけない靴紐の結び方なども学んだ。



(7) 研修⑦「自然体験活動の企画・運営」

講師：文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏

プログラムを企画するうえで必要なプロセスについて学び、グループで「ねらい」を明確にしたプログラムを企画した。その後、個々人で日帰りの事業を企画し、企画書を作成した。



《参加者の感想》

- ・若い方が参加しているので、今後も継続してください。
- ・事故が起きないように、下見をし安全に行っていきたい。
- ・登山中の事故、危険性などを再確認することができました。また、ガイドとしての役割も理解することができました。
- ・業務上安全管理は大変勉強になりました。講師の方もわかりやすい説明、聞き取りやすい言葉をありがとうございました。
- ・いろいろな講師の方々とも交流でき、他施設からの参加者や登山ガイドの方たちとも親交を深めることができ、学びだけでなく人とのつながりも生まれて良い機会となりました。

《成果と課題》

- 講義形式の講習だけでなく、自然のフィールドを最大限活用し、体験しながら学べるような運営を行った。参加者からは、実践しながら学ぶことができたという好評を得ることができた。
- 各講義で、参加者同士の交流、意見交換ができるよう、アウトプットする場を多く設けた。その結果、参加者同士の対話から、多くの学びを促すことができ、好評を得ることができた。
- インストラクターの受講資格等の要因により、参加者を確保することに非常に苦慮した。さらに広く普及するためには、多様な手段を用いた広報が必要であると感じた。